

研究室紹介

『予防診断学研究室』では、教授の岩谷良則先生と助教（学部内講師）の渡邊幹夫先生の指導のもと、社会に役立つ研究と独創性の高い研究を目指して、私たち臨床検査技師の大学院生が頑張っています。

研究テーマ

『自己免疫疾患の予後診断学の開発』をテーマとして、代表的な臓器特異的自己免疫疾患である、自己免疫性甲状腺疾患（橋本病・バセドウ病）をモデルに、自己免疫疾患の病因・病態を解明する研究を行っています。

甲状腺は、あらゆる臓器の中でもっとも診断・治療法の開発が進んでいる臓器で、自己免疫疾患の有病率が高く、標的臓器も解析し易いという利点があります。

現在は、遺伝子多型やエピジェネティクス、フローサイトメーターによる発現解析、甲状腺濾胞の3D培養などの手法を用いて日々研究を進めています。



大学院生の日常

岩谷研では、毎週月曜日に検査データから病態を的確に把握するための症例検討会を行い、さらに、毎週土曜日には自分の研究に関する論文を紹介する抄読会があり、月に1度のペースで回ってきます。この抄読会で他の大学院生の研究内容もよく理解できるようになります。その他、適宜リサーチミーティングで実験の問題点や結果について議論します。

基本的に大学院生はそれぞれ独立したテーマで実験を行っています。特別研究生として研究室に配属されてくる学部の4回生に実験技術や原理を教え、卒業研究のサポートをするなど、チームワークや縦のつながりも大切にしています。

博士前期課程においては、2年間の研究成果を関連の学会で発表し、国際学術雑誌に投稿します。そして修士論文は、かならず英語でまとめて提出することが義務付けられています。

もちろん生活のため、遊ぶために様々なアルバイトもしています。採血や生理検査、脳波の夜勤などの病院での検査業務や専門学校の講師など、臨床検査技師の資格や知識が生かせるアルバイトをする人が多いです。

先生方は2人ともとても気さくな方で、研究指導も懇切丁寧にしてくださいませし、研究以外にも様々なことを教えていただいととても感謝しています。そんな先生方のもと、やるときはやるけど休む時はしっかり休む、とメリハリのある研究室生活を送れ、いつも新鮮な気持ちで研究に臨むことができます。

大阪大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 生体情報科学講座 予防診断学研究室
博士前期課程2年 森田 麻美